

『現象に対する運動の抽出の工夫』

医療法人寿山会 喜馬病院

井尻朋人

現象に対して運動を抽出するということは、治療におけるターゲットを明確にし、正確に機能障害の改善を目指せるメリットがある。そのため、動作における現象に対して運動を導き出すステップはセラピストとして向上させたい。

一方で、現象に対する運動の抽出に難渋した経験をもつ方も多いのではないだろうか。自分の意見と先輩の意見が合わない、教えてもらって理解したつもりでも次の症例にうまく反映できない、ということは私自身も経験したことである。難しく感じてしまうことも多い。

そこで、本講習では、再現性を持って、他者にもわかりやすく運動を抽出する私なりの工夫についてお伝えする。アラインメントを具体的にどこをどのように見て判断するか、現象に対する運動の種類は何があるか、などをワークや実技を通して、理解を進める。他者にも説明できるように、体系的に理解できるように、なるべくわかりやすく解説していく。なかなかうまくいかないと感じている方や後輩へ指導に苦慮している方におすすめします。